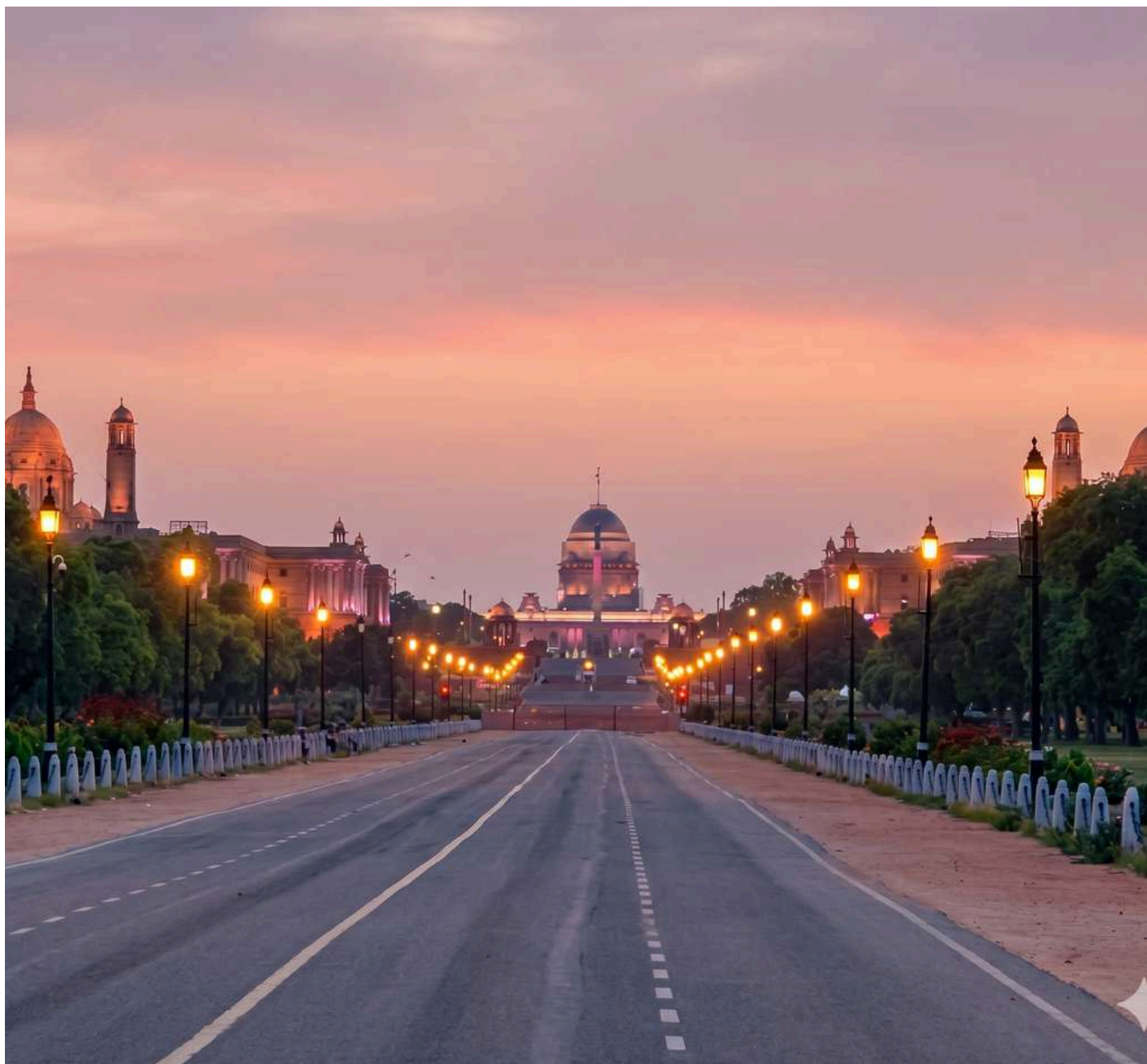


5月号

MAY 2026

MJIA

M A G A Z I N E



デリーの大統領府 西本達生撮影

公益財団法人日印協会

住 所：〒102-0083 東京都千代田区麴町1-6 麴町保坂ビル6階
電 話 番 号： 03-6272-4408 <https://www.japan-india.com>



世界をつなぐ、あたらしい空へ。



日印協会は、明治36年（1903年）の設立以来、日印間の政治・経済・文化交流に貢献しています。

目次

会長就任のご挨拶 岸田会長	4
会長代行就任のご挨拶 萩生田会長代行	5
江戸川インド人会 会長 ジャグモハン・チャンドラニ氏 インタビュー	6
仏教聖地ナールンダで日本文化・日本語紹介ミッション派遣 国際交流基金ニューデリー日本文化センター所長 佐藤幸治氏（個人会員）寄稿	9
ジャールカンド州紹介	13
第2回「インド実務講座」開催報告 現地での不動産取得のリスク、インド裁判の実態、現地当局への対応術	15
書籍紹介	16
日印協会からのご案内	17
編集後記	18
法人会員一覧	19

インドの良き食文化をお伝えする事が私たちの使命です。（全国配送承ります）



シタルのインドカレー
変わらぬ人気のカレー
をそのままのお味で、
ご家庭へ。

社長の増田泰親は学生時代、当時九段にあった印度料理アジャンタでアルバイトとして入店し、大学卒業後はコックとして修業を積み、1981年に千葉市で印度料理シタルを創業いたしました。



アルフォンソマンゴドリンク
アルフォンソマンゴ
といえばシタル。自信
ある逸品です。

社長の増田泰親が情熱を傾けるアルフォンソマンゴから作る無添加ドリンクです。毎年インドの農園へ行き品質を確認して原料となるマンゴを輸入しています。



野生黒蜂蜜 ハンティングハニー
インド メルガートの自然保護区でハニーハンターによって採集される貴重な蜂蜜です。



おうちでつくれるチャイセット
インドのパザールで飲む味そのまま！おうちで簡単チャイキット。マサラとレシピ付。

味と香りの調を奏でる since1981
Sitar
印度料理シタル
千葉県千葉市花見川区検見川町 1-106-16
mail : info@sitar.co.jp

■上記以外の商品も多数取り揃えております。
■個人様、企業様向け季節のギフトなどのコーディネートもご相談承ります。

ご注文・お問い合わせは **TEL 0120-166-358** <http://www.e-sitar.jp/> ^

会長就任のご挨拶 岸田会長



このたび、菅義偉前会長の後任として、公益財団法人日印協会、第10代会長に就任いたしました。

日印協会は、明治36年（1903年）の設立以来、123年という長きにわたり、我が国の民間対外交流を担ってきた、日本で最も歴史ある国際交流団体です。森喜朗元総理、安倍晋三元総理、そして菅義偉元総理という、日印関係の深化に心血を注いでこられた諸先輩方の跡を継ぎ、この伝統ある団体の舵取りという大役を仰せつかったことは、非常に光栄であるとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いです。

今日、インドの重要性は地政学的、政治的、そして経済的にも、近年ますます高まっています。普遍的価値を共有する日本とインドが「特別 戦略的 グローバル パートナーシップ」を一層強化していくことは、単なる二国間協力に留まらず、国際社会の平和と安定を支える「確固たる礎」となります。そして、それは日本の国益にも大いに資するものであると確信しております。

私はこれまで外務大臣や総理大臣として、モディ首相をはじめ、インドの政財界の多くの方々と真摯な対話を重ねてまいりました。そこで培った信頼関係を最大限に活かしつつ、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の理念のもと、日印関係をさらに重層的に発展させていくことに全力を尽くしてまいり所存です。

日印協会の活動は、法人会員、個人会員の皆様お一人おひとりの力強いご支援によって支えられています。私は、皆様と可能な限り頻繁にお会いして交流を深め、現場の熱意やニーズを直接伺いたいと考えております。

皆様との対話を通じて、これまでの伝統を重んじつつ、次のような取り組みを一層推進してまいります。

- 戦略的パートナーシップの支援：官民一体となった経済・投資活動の促進。
- 次世代の交流：両国の未来を担う若手リーダーや学生の相互理解の深化。
- 文化・知的交流の拡大：歴史に裏打ちされた深い信頼関係の維持と発展。

世界が歴史的な転換期にある今、日印両国の結束は、共に新しい時代を切り拓いていくための原動力です。歴代会長が築いてこられた確かな礎の上に立ち、新会長として期待されている使命をしっかりと果たしてまいり決意です。

会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

公益財団法人日印協会 会長 岸田 文雄

会長代行就任のご挨拶 萩生田会長代行



このたび、公益財団法人日印協会の新設ポストである会長代行に就任いたしました。

私はこれまで、経済産業大臣や政務調査会長といった要職を通じて、日印の産業・技術協力や安全保障の枠組みづくりに深く関わってまいりました。

これまでの政治キャリアで培った知見と、インド政財界とのネットワークを最大限に活かし、「特別 戦略的 グローバル パートナーシップ」をより具体的かつ実利のあるものへと進化させていくことが、私の使命であると考えています。

故・安倍晋三元会長は、日印関係を「世界で最も可能性を秘めた二国間関係」と呼び、その発展に心血を注いでこられました。その遺志を継ぎ、菅義偉前会長が築かれた確固たる信頼を土台として、日印の共存共栄がアジア太平洋、ひいては世界の平和と繁栄の礎となるよう、岸田文雄新会長とともに不退転の決意で取り組んでまいります。

会員の皆様とも、この「日印新時代」を力強く切り拓いていきたいと願っております。今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

公益財団法人日印協会 会長代行 萩生田 光一

インタビュー企画

江戸川インド人会 会長 ジャグモハン・チャンドラニ氏

日本で活躍するインド人 第2回



ジャグモハン・チャンドラニ氏（左） 齋木理事長（右）

東京都江戸川区西葛西は、今や「リトルインディア」として知られる日本最大のインド人コミュニティです。この地域の発展を語る上で欠かせない人物が、1978年に日本に來日し、西葛西に住み始めた最初期のインド人の一人であるチャンドラニ氏です。貿易商として事業を営みながら、インド人コミュニティの形成と発展に大きく貢献してきた同氏に、西葛西の変遷、コミュニティ作り、そして日印関係の未来について詳しくお話を伺いました。

<インタビュー日時> 2026年5月14日（木）

<インタビュアー> 公益財団法人日印協会 理事長 齋木昭隆

齋木昭隆理事長（以下、齋木理事長）

チャンドラニさんは、西葛西のインド人コミュニティ形成に大きく貢献されたことで知られていますが、まずはご自身のルーツについてお聞かせください。

ジャグモハン・チャンドラニ氏（以下、チャンドラニ氏）

私の家系は四代続く貿易商で、もともとはシンド地方、現在のパキスタンにあたる地域でヨーロッパ向けの貿易を営んでいました。しかし1947年の印パ分離独立の際、家族はインドへ移住することになったのです。当時、父は母の治療のため、カラチからジョードプールまで飛行機で渡り、その後カルカッタへ移り住みました。

齋木理事長

まさに歴史の激動の中での移住だったんですね。

チャンドラニ氏

はい。父にとっては、全てを一からやり直すようなものでした。カルカッタでは映画館向けの音響機器の輸入販売を始めました。当時のインドでは映画産業が非常に活気を帯びていて、新しい映画館も次々にできていましたから、映写機やスピーカーなどの需要が大きかったのです。私はそうした環境の中で育ちました。

齋木理事長

映画文化が盛んなインドらしいエピソードですね。

チャンドラニ氏

子どもの頃から映画館は身近な存在でした。父の仕事の関係で映画館に出入りする機会も多く、インド映画産業の勢いを肌で感じていました。当時のカルカッタは文化的にも非常に豊かな街で、商業都市としても活気がありました。貿易業だけでなく、芸術や音楽、映画など、多様な文化が混ざり合っていたのです。

齋木理事長

学生時代はどのように過ごされたのでしょうか。

チャンドラニ氏

カルカッタで育ち、その後デリー大学へ進学しました。当時のインドは独立後の発展期で、若者たちの間にも「海外へ出て挑戦したい」という気運がありました。私自身も当初はニューヨークへ行く予定だったのですが、親族が神戸で仕事をしており、その親族がアメリカへ移ることになったため、代わりに私が日本へ来ることになったのです。それが1978年でした。

齋木理事長

1970年代の日本は、今とはかなり異なる社会だったと思います。来日当初はいかがでしたか。

チャンドラニ氏

当時の日本にはインド人がほとんどいませんでした。1ドル360円前後の時代で、日本は輸出大国として成長していました。私は輸出会社との仲介業務を行っていましたが、輸出企業には英語を話せる社員がいたため、日本語ができなくても仕事はできました。ただ、27歳になって「自分でも何か新しい事業を始めたい」と考えるようになり、日本国内向けの輸入事業に挑戦しました。

齋木理事長

日本語の習得にはご苦労もあったのではありませんか。

チャンドラニ氏

日本語学校にも通いましたが、クラスには私一人だけがインド人で、他は中国系や東南アジア系の方々ばかりでした。ひらがなやカタカナは皆一緒に学べましたが、漢字になると皆さんは非常に早い。私は全く追いつけず、クラス全体を待たせてしまうことが申し訳なくなってしまいました。それで途中から独学に切り替え、耳で聞いて覚えるようにしました。

齋木理事長

耳で聞いてわかった、と。

チャンドラニ氏

それしかないの。そういうことで、まあ何を輸入するかというと当時はインドのハンドウィーブ製品も人気がありましたが、私は紅茶を選びました。地元には茶園や茶商の知人が多かったからです。父に相談したところ、「本気でやるならやってみなさい」と背中を押してくれました。小ロットから始め、保管倉庫を探していたところ、東京都が新しく整備していた臨海町の物流拠点に入ることができました。

齋木理事長

そのことが、西葛西とのご縁にも繋がったのですね。

チャンドラニ氏

そうです。当時は飯田橋駅の神楽坂に住んでいましたが、臨海町の倉庫まで通うのが大変でした。バスも少なく、一日がかりになってしまう。それで倉庫の近くに住もうと考え、西葛西へ移りました。当時はまだ駅もなく、周囲は畑ばかりでした。海苔やレンコン、小松菜の産地として知られていた地域です。

齋木理事長

現在では「リトルインディア」と呼ばれるほどですが、大きな転機はやはり2000年問題でしょうか。

チャンドラニ氏

はい。2000年問題への対応で、インドから大量のITエンジニアが来日しました。それまで20年近くで数家族しか増えなかったインド人が、一気に何百人規模になったのです。彼らは高い技術を持っていましたが、日本での住居探しには非常に苦労していました。

齋木理事長

その支援をチャンドラニさんが担われたのですね。

チャンドラニ氏

不動産会社の方々は外国人対応に慣れておらず、家賃支払い能力や保証人、言葉の問題を心配していました。そこで給与明細を見せて説明し、私が連絡窓口となり、保証人にもなりました。妻とも相談しながら、一人ひとり支えていったのです。

齋木理事長

コミュニティづくりの基盤を整えられたわけですね。

チャンドラニ氏

単身赴任のエンジニアたちは、夜遅くまで働き、食事にも困っていました。特にベジタリアンの方は外食が難しい。そこで賄い食堂のような形でレストランを始めました。そこが交流の場となり、自然にコミュニティが形成されていきました。

齋木理事長

現在ではディワリ祭りも地域に定着しています。

チャンドラニ氏

最初は区民会館で数十人規模でしたが、今では地域のお祭りとして多くの日本人の方々にも参加していただいています。今年で26年目です。最初は珍しそうに見ていた方々も、徐々に行き渡って、最初は若い方々が来たり入ったりして、そのうち夫婦、子供、今はおばあちゃんも来て、みんな座って食材を食べたり、踊りを見たり、音楽を聴いたり、子供たちが走り回ったりということの、町の祭りです。

齋木理事長

素晴らしいですね。例えば、日本はこれから外国人を移民として受け入れるという場合に、いかにローカルな、日本の人たちと仲良くやれるかという一つのいい例を示しているわけですよね。チャンドラニさんが日本社会との共生において、大切にされてきたことは何でしょうか。

チャンドラニ氏

相互理解です。地域の方々から不安の声があれば、きちんと説明し、必要なら改善する。インド人の多くは教育を受けた専門職ですので、ルールを理解すればきちんと守ります。時間をかけて信頼関係を築くことが重要だと思います。

齋木理事長

最後に。インドと日本は今、政治の面でも経済的にもすごく近いパートナーで、特別なパートナーシップと言われていますが、それは一つのスローガンに過ぎなく。実際にこれからの両国の関係はチャンドラニさんから見て、どんな風に発展していったら良いのでしょうか？

チャンドラニ氏

日本ではまだインドについて十分知られていません。しかし、ITや教育、人材交流を通じて、両国はこれからさらに近づいていくと思います。政府間だけでなく、人と人との交流を深めることが何より重要です。西葛西で築かれてきたような草の根の交流が、未来の日印関係を支えていくのではないのでしょうか。

齋木理事長

インドでの少年時代から、西葛西でのコミュニティ形成に至るまで、大変貴重なお話をありがとうございました。今後の日印交流のさらなる発展に向け、引き続きご活躍を期待しております。



仏教聖地ナーランダで日本文化・日本語紹介ミッション派遣

国際交流基金ニューデリー日本文化センター所長 佐藤幸治氏（個人会員）

インドにおける日本語教育は、この20年余りで大きく発展しました。2003年時点で、日本語教育を実施している機関数は全国でわずか16校、学習者数も1000人余りに過ぎなかったのが、2024年調査では機関数381校、学習者数52,946人に達しています。日本語を学ぶインドの若者が50倍にも増えた背景には、政治・経済・文化各面における日印関係の成熟と、それを支えてきた多くの関係者の努力があります。

国際交流基金ニューデリー日本文化センターも、日本語教師育成や教材開発、日本文化紹介事業などを通じて、その発展を支援してきました。私自身、1999年から2003年、そして2021年から現在まで、通算9年以上ニューデリーに勤務する機会を得ましたが、この間にインドの人々の日本への関心が飛躍的に高まったことを日々実感しています。訪問先で若者たちが日本語で話しかけてくれることは、何よりの喜びとなっています。

インドの人々の日本語学習の動機もまた多岐にわたります。異文化を知ることや趣味の言語学習として学ぶ人は時代を超えていつも一定数います。最近では、日本のマンガ・アニメへの関心から作品をオリジナル言語で理解したいという動機で学ぶ人も急増中で、このなかには独学でネイティブと間違えようようなレベルの習得者もいて驚かされます。また、ビジネス交流が年々活発になるに従い、日系企業への就職を志す若者も増えてきています。そして、2025年8月の日印首脳会談で、向こう5年間で5万人の熟練人材を日本に送る日印人材交流イニシアティブが公になり、インドの有為な若者が日本を目指し、業務や生活に必要なレベルの日本語コミュニケーション力を身につけるニーズも一段と高まりを見せています。工学系、経営系の大学からほぼ毎週の頻度で日本語コース開講についての照会が入ってきて、私たちは地道に続けている日本語教師育成コースの修了生とこうした大学のマッチングを支援して、一人でも多くの学生が日本語を学ぶ機会を得られるよう努めています。

そして、日本語の学部やコースが新たに開くというニュースを聞くやいなや、学校へのお祝いとして、事務所の5、6人のスタッフのチームによる文化日本語ミッションを派遣します。チームは、私のような日本人職員、国際交流基金との契約で派遣されている日本語専門家、そして事務所のナショナル・スタッフからなり、時に在留邦人で日本文化のデモンストレーションができる方にも加わっていただくこともあります。本稿では、2026年4月9日にビハール州の新ナーランダ僧院（Nav Nalanda Mahavihara）に派遣したミッションの活動をご紹介します。このような活動の狙いや意義について触れたいと思います。

ナーランダ僧院は仏教生誕の地インドで最も権威ある仏教研究の拠点で、5世紀のグプタ朝期に創建された世界最古の大学としても有名です。12世紀から13世紀初頭にかけて時の王朝の侵攻により破壊されて以降は廃墟となりましたが、ユネスコの世界遺産に登録され、遺構は丁寧に修復保存されています。日本に伝来した大乘仏教の開祖とされる龍樹（ナーガール・ジュナ）や、経典原典に基づく教えを求め唐代中国からインドへ旅しこの僧院で学んだ玄奘三蔵とひもづけて、ナーランダのことを覚えておられる方が多いのではないかと思います。最近のこととしては、仏教隆盛期に花開いた思想・学問を再訪し研究するとともに現代に有用な知として再建することを志すインド政府のイニシアチブで2014年に設立された Nalanda Universityが注目されていますし、インドの外交官Abay K.氏が2025年に著された著書「Nalanda」が書店でベストセラーになるなど、ナーランダが改めて知の拠点として注目

を集めています。

今回我々国際交流基金チームは、独立インドが古代中世の僧院の叡智の復活を企図し1951年に Rajendra Prasad大統領により開校したNava Nalanda Mahavihara（新ナーランダ僧院）を訪ねました。ラビンドラナート・タゴールがシャンティニケタンに開いた大学ビッショ・バロティにて日本語学で博士号を取得したSubhajit Chatterjeeさんが講師として採用され、新ナーランダ僧院で日本語のコースが始まったことを聞いていた私は、このコースが4年制の学科（BAコース）になるということを知り、その発展を期してお祝いに駆けつけることにしました。JF西遊記チームの構成は、以下の7名です。

日本人職員・専門家：所長（佐藤）、日本語事業担当次長（豊丸）、日本語専門家（矢野）

インド人ナショナルスタッフ：Meeli, Ishmeet, Rajvir

ボランティア専門家：長浜浩子先生（書道家、日印学生会議創設者・アドバイザー）

JFニューデリーの6名に、長年日印友好に尽力されてきた長浜さんのご参加を得て、今回のミッションはいつも以上に友好親善のオーラを帯び、トップからスタッフ、教員、学生まで、到着直後から大学全体で大歓迎を受けました。デリーから空路パトナに飛び、パトナから約2時間走った車のキャラバンは4月8日午後、ナーランダに到着、Subhajitさんに温かく迎えられました。

Subhajitさんらは、大学の副学長表敬の前に、我々西遊記チームを世界遺産となっている僧院の遺構に案内してくださいました。大部分がトルコから侵攻したキルギー王朝により破壊されたとはいえ、残っている遺構だけでも往時の仏教学の頂点としての気風が実感されます。ストウパ、瞑想場を見てまわった一行は小さな三畳ほどのレンガで仕切られた個室の連なりを歩き、ついに玄奘三蔵の個室にたどり着きました。その狭い部屋の一角に、利休の茶室の入り口ほどに小さく切り掘られた一畳にも満たない瞑想部屋を見つけたとき、真理を探究する真剣さ、高い精神性に触れると同時に、文明は興亡を繰り返し世は無常であることにも思いを馳せたものでした。明日の新ナーランダ僧院での日本文化ミッションに向けて、独立インドのリーダーの知の再建への志とそれを受け継ぎさらには日本についての学びを新たに導入した現代のリーダーへの敬意をも新たにした一行は、遺跡を後にし大学の副学長室へと向かいました。

インドの大学はイギリススタイルを採用しているため、新ナーランダ僧院の学長Chancellorは中央政府の文化大臣が担い、実質的な長は副学長Vice Chancellorです。J F ミッションをご



言語とテクノロジーを、日本とインドで

▶ 翻訳 / ローカライズ

英語や日本語とインドの各言語間双方向の翻訳 / 通訳
80 言語以上に対応する
翻訳・ローカライズサービス



▶ ソフトウェア開発

▶ IT サポート業務および 人材コンサルティング

▶ インド現地における各種印刷物制作

▶ インド現地における市場調査など

Japan フィデル・テクノロジーズ株式会社

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-2-3 九段プラザビル 7 階
電話：03-6261-4910（翻訳・印刷・現地調査）
電話：03-6261-3309（開発・IT サポート）
Eメール：info@fideltech.com Web：fideltech.jp

India Fidel Softech Ltd.

Address: 2nd Floor, West Wing, Marisoft IT Park 3,
Kalyani Nagar, Pune 411014 (MS), India
Tel: +91-20-49007800
Email: sales@fidelsoftech.com Web: fidelsoftech.com

招待くださった副学長はDr. Siddhartha Singh、日本との所縁のあまりにも深い、日印関係にとってとても重要な方です。仏教学の研究者として実績を積まれたシン氏は、政府から任命され2018年から2022年まで、在インド大使館のインド文化センター（VCC）の所長として、インド文化の日本への普及と日印交流の推進に尽力されました。研究者としての知見を遺憾なく発揮され、日本人とインド人が共有する深い精神性の次元での共感と信頼を育ててこられた彼が、インド帰国後に現代のナーランダ大学に日本についての学びを取り入れようと思いついたのは当然のことだったでしょう。ミッションを同じくするJFの我々と長浜さんへの同志としての共感と、学生に日本語と日本学を教え将来日本と関わってほしいという強い気持ちにあふれる再会となりました。

4月9日、日本文化プログラムは、大学の別棟として完成したばかりの「玄奘記念館」にて行われました。インド政府と中国政府が共同出資して建立された荘厳な佇まいの記念館は、実はまだ正式なオープニングを終えておらず、シン副学長の特別なはからいで、この日本文化ミッションが玄奘記念館における最初のイベントとなったのでした。インド内外から学びに来ている仏僧の祈りから始まったイベントは、今日の文化理解体験から多くを得てさらにこれからの日本語・日本学の学びに精進を期待するシン副学長から学生たちへのメッセージ、長浜さんら大学への書の寄贈（「蓮」と「智恵」）などのセレモニーを経て、いよいよ文化プログラムへと入っていきます。

最初のプログラムは、日本語専門家の矢野先生とJFスタッフによる日本語のセッション。日本語と日本についての簡単に楽しめるクイズやゲームを盛り込んだセッションを学生さんたちは多岐に楽しみました。このプログラムでは、日本語の楽しさや学習方法のアドバイスにとどまらず、日本語を修得した後、学生たちがチャレンジできる就学や就労の様々な機会の紹介も加えて、学生さんたちに日印人材交流イニシアチブといった大きな社会動向や政府のプログラムの存在と一人一人の将来のビジョンやモチベーションをつなげて考えるための補助線を引いてあげるように意を尽くして準備しました。学生さんたちからたくさんの質問があり、シン副学長にまでお手伝いいただき、一つ一つの質問に丁寧に答えることができ、ねらいは達成できたように思います。

続くプログラムは長浜さんによる書道のデモンストレーション。予めご準備されていた「祝ナーランダ大学日本語学科」と記した作品を中央に配し、その下に3枚の全紙（135cm×70cm）を置いた長浜さんは、順番に「桜」「夢」「愛」の一字を素晴らしい筆致で書かれ、完成の都度、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。



長浜浩子氏からシン副学長へ書の寄贈

続いて、J F チームによる歌のセッションへ。日本人の私とインド人のVaishnaviさんが、豊丸さんのパーカッションをバックに、日本語の歌2曲とヒンディー語の歌2曲を歌いました。ヒンディー語の歌は、ボリウwoodsのクラシック名作から、“Bade Achhee Lagte Hain” (“Balika Badhu”1976年)と“Ye Dosti Hum Nahin Todenge” (“Sholay”1975年)を選びました。昔の歌ですが、教授陣も学生さんもみなよく知っていて、一緒に歌う大合唱となりました。私は開会式の挨拶もヒンディー語で行うのが常ですが、挨拶にしても歌にしても、日本語を学んでいる、あるいはこれから学ぼうとしている人たちに対して、外国語は誰でも習得できるし何より知識としてではなくコミュニケーションのツールとして使ってはじめて、喜び、感動、共感などのプラスの感情や空気を生み出すことができるということを伝えるよう努めています。別の機会に10代の学生に向けて学校でスピーチをした際には、「20代になってからヒンディー語をはじめた私が50代のいまもこうやって人前で話せるのだから、その若さで日本語をはじめたあなたたちは将来日本語を使ってなんでもできる」と鼓舞したものです。



書道ワークショップ



折り紙ワークショップ

これらのセッションを経て、いよいよ最後は学生さんたちが参加して日本文化を体験するワークショップです。日本文化紹介を事業として実施するとき、専門機関としての国際交流基金は、様々な文化ジャンルそれぞれに経験を積んだプロフェッショナルによる実演によるいわゆる「本物」を体験させることを一方で大切にしつつ、もう一方で学校訪問を数多く実践し次世代に共感と学び続けるモチベーションをもってもらうことを意識して、折り紙、浴衣体験、そして書道など、楽しく参加して体験で覚えるワークショップをたくさん実践しています。今回も、書道ワークショップを長浜さんをお願いし、J F スタッフは折り紙と浴衣体験を一生けん命ファシリテートしました。教職員も学生もみんなが3つのワークショップをすべて堪能して、自分の創作を自信満々に披露した集合写真は、満面の笑顔であふれていました。

このプログラムを大学では学外にも広く宣伝していたので、ナーランダのコミュニティからの参加もあり、ブッダガヤの学校でボランティアで日本語を教えているという青年との出会いもありました。プログラムを終えて、改めてSingh副学長やSubhajit先生らと振り返りをするなかで理解を新たにしたのは、現代に古代の仏教大学を現代に復興させるという大きなミッションと同時に、学生の多くが近隣の農村地域の裕福とはいえない階層出身で、卒業後は実業でよい職を得て生活を良くしたいという思いをもって学んでいるという現実もあり、その両方が大事であるということです。ナーランダはじめ、インドの都市から地方まで各地で日本語を学ぶ若者たちが、日本となんらか関わる分野で将来機会を得て、自身の人生をハッピーにしつつ日印関係の発展に寄与してほしい。そういう思いをもって、これからも国際交流基金の文化と日本語普及のミッションを続けて参ります。

ジャールカンド州

概要

- * 州都：ランチャー
- * 人口：32,988,134人（2011年国勢調査）
- * 面積：79,716 km²（県（District）：24）
- * 識字率：76.7%（2024年）
- * 主要言語：ヒンディー語（公用語：コルタ、ナグプリ、マガヒ、ボージプリ等方言を含め約62%）、ベンガル語（9.7%）、サンタル語（8.8%）、ナグプリ語（7.2%）、ウルドゥー語（6.0%）（2011年国勢調査）
- * 宗教：ヒンドゥー教（67.8%）、イスラム教（14.54%）、キリスト教（4.3%）、サルナ土俗自然信仰（12.5%）（2011年国勢調査）



政治

（1）州政府

- * 州知事：サントーシュ・ガングワル（Santosh Gangwar）
- * 州首相：ヘマント・ソレン（Hemant Soren）

（2）州議会：一院制（定員81、2029年11月任期満了）

- * 与党：JMM 34、INC 16、RJD 4、CPI（ML）2
- * 野党：BJP 21、LJP（RV）1

（3）概況

2000年にビハール州南部地域が分割され、ジャールカンド州が創設されて以来、インド人民党（BJP）とジャカンド解放運動（JMM）が政権を取り合ってきた。2014年州議会選挙ではBJPが37議席（NDAとして42議席）を獲得し、ラグビール・ダス政権を樹立したが、2019年州議会選挙では、JMMが30議席を獲得し、INC（15議席）の協力を得て、ヘマント・ソレン政権を発足させた。2024年州議会選挙でもJMMが第一党（34議席）となり、INC、RJD等との連立によるヘマント・ソレン政権を継続させている。ただし、同選挙で第二党となったBJP（21議席、得票率はJMMより10ポイント多い33.6%）は、2024年連邦下院選挙では、同州枠14議席のうち8議席を獲得（得票率45.1%）しており、与野党勢力はほぼ拮抗している。

経済・産業

(1) 主要指標 (2024年度、ジャールカンド州経済白書)

* 名目州内総生産 (GSDP): 5兆1625.5億ルピー

* 一人当たり名目GSDP: 116,663ルピー

* 実質GSDP成長率: 7.02%

* 州内総付加価値 (GSVA) 構成比: 農業6%、工業42%、サービス分野45.6%、その他6.4%

(2) 概況

州の約3割が森林地帯で、石炭、鉄鉱石、石灰石、銅鉱石、ボーキサイト等の鉱物資源に恵まれ (インド全体の40%とも見積られる)、鉱業及び鉄鋼業が主要産業。タタ財閥創設者のジャムシェトジー・タタによって20世紀初めに開発されたジャムシェドプルは、タタ製鉄やタタ自動車の拠点として関連企業等が集まり、一大産業集積地となっている。また、ダンバードがインドを代表する一大炭鉱都市となっている。州政府は、鉱業や鉄鋼業を基盤とする産業基盤の多様化を目指し、エコ・ツーリズム、繊維、食品加工分野等の促進にも積極的に取り組んでいる。

(3) 進出日本企業

* 進出日系企業: 2社 (本拠登録)、61拠点 (2024年10月現在)

* 主な進出企業: 京セラ (精密機械部品製造)、黒崎播磨 (耐熱特殊タイル製造)、矢崎総業 (ラーヤーハーネス等自動車部品製造)、日立建機 (タタ自動車との合併によるタタ日立ジャムシェドプル工場での2020年まで重機製造) など

その他

ジャールカンドとは、森 (ジャール) の土地 (カンド) という意味。州公用語はヒンディー語で、人口の68%がヒンドゥー教徒であるが、32の指定部族が人口の26.2%を占める (2011年センサス)。指定部族 (サンタル語やムンダ語はじめ母語を異にする少数民族) の多くは地方村落に居住し、独自の民族文化、伝統、社会習慣を有している。

州東部から東南部にかけてのチャッティスガル州及びオディシャ州との州境近辺は極左武装勢力ナクサライトの活動、潜伏地域であったため、治安に問題があったが、近年、治安部隊、警察による掃討作戦、取締りが進み、ナクサライトによる殺害、誘拐、襲撃事件等はほぼ無くなり、治安は改善している。

第2回「インド実務講座」開催報告

現地での不動産取得のリスク、インド裁判の実態、現地当局への対応術

日印協会では、インド進出を加速させる日本企業のニーズに応え、2026年3月より半年間を「インド事業実務強化期間」と位置づけ、全7回にわたる『インド実務講座』シリーズを展開しております。その第2回を、4月24日に日本クラブ会議室にて開催いたしました。当日は、法人会員および個人会員の皆様を中心に約20名の方々にお集まりいただきました。

本講座は、日頃より当協会の活動を支えてくださっている会員の皆様の課題解決に直接資することを目的として企画されたものです。第2回となる今回は、インド法務の最前線で活躍するエキスパート陣を講師に迎え、「現地での不動産取得のリスク」「インド裁判の実態」「現地当局への対応術」という、進出企業にとって極めて重要かつ生々しいテーマについて、専門性の高い実践的な学びの場が実現いたしました。

当日は、以下3名の豪華な講師陣をお迎えいたしました。まず、インド最高裁・高等裁判所の上級法廷弁護士（Senior Advocate）であり、Zeus Law Associatesの共同創業者（元シニアパートナー）であるVivek Kohli（ヴィヴェック・コーリ）弁護士。そして、同事務所の共同創業者兼マネージングパートナーであるSunil Tyagi（スニル・チャギ）弁護士のお二人には、現地の強固なネットワークと膨大な実務経験に基づいた知見を共有いただきました。さらに、日系企業のインドビジネスを深く知るKWパートナーズ合同会社共同創業者兼マネージングパートナーの鈴木健二氏にもご登壇いただき、日本企業の視点に立った多角的な解説を加えていただきました。

講義では、トラブルが頻発しやすい「不動産取得における潜んだリスク」や、不透明と言われる「インドにおける裁判・紛争解決の実態」、そして円滑な事業運営に欠かせない「現地当局への効果的な対応術」について、具体的な事例を交えた生々しく精緻な分析が披露されました。現地の最前線で企業の利益と権利を守り続けてきた講師陣ならではの「実務的解決策」は、参加した会員の皆様にとって、今後のリスクマネジメントに直結する大変貴重な機会となりました。

本セミナーシリーズは、今後も半年間にわたり継続してまいります。今後の予定は別表の通りです。当協会では、こうした活動を通じて、引き続き会員企業の皆様のインド事業における実務強化を支援してまいります。末筆ながら、本講座の開催にあたり貴重な知見をご共有いただいたKohli氏、Tyagi氏、鈴木氏、ならびにご協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。



今後開催予定のテーマと開催時期

日程未確定の個所については決まり次第お知らせ致します。

事務所	講演テーマ案	開催時期案
松田綜合法律事務所	インド進出におけるリアルな失敗・成功事例、労務管理、不正対策	6月15日（月）15:00~17:00
TMI総合 法律事務所	スタートアップ投資・JV構築：急成長するインド・エコシステムへの投資実務とJV解消のポイント	7月21日（火）15:00~17:00
森・濱田松本法律事務所	インドの最新法規制トレンド デジタル個人情報保護法など、上場会社M&Aの特徴	8月3日（月）15:00~17:00
Baker Tilly ASA India	B I S関係	10月

<書籍紹介>

ラストアイランド 北センチネル島

なぜ外界との接触を拒み続けるのか

著者：アダム・グッドハート 著
笠井 亮平 訳

出版年月日：2026/04/23

定価：2,640円（本体2,400円＋税）

発行：白水社

外界との接触を拒み続けてきた孤島。接近と拒絶の軌跡を丹念にたどり、文明と人間の在り方を根底から問い直すノンフィクション。



インド洋東部、インド領アンダマン諸島の孤島・北センチネル島。世田谷区ほどの広さのこの小島に暮らす人びとは長年、外界との接触を拒み続けてきた。しかし2018年、若いアメリカ人宣教師が上陸を試みて島民に殺害される事件が発生。国際的に報道されたことで、現代にも「未知」が存在することに世界は驚愕したのであった。

本書は、事件の20年前に偶然この島の存在を知った著者が、これまで可視化されることのなかった島民の実態に迫ろうと、長期にわたり取材・調査し続けてきた記録である。現地訪問の体験や、限定的とはいえ島民と接触した人類学者の証言、周辺諸島の事例を手がかりに、接近と拒絶の歴史を丹念にたどる。

「つながる」ことが是とされる現代社会において、彼らが「つながらない」ことを今日まで続けられたのはなぜなのか。そして、外部の人間は「文明」の名のもとに彼らをどうとらえてきたのか。北センチネル島とそこに暮らす人びとの姿から浮かび上がるのは、結局のところ、人間とはどのような存在なのかという根源的な問いである。

「最果ての島」から、文明と人間の在り方を見つめ直す傑作ノンフィクション。

コーラクンダ茶園
 チャムラーン茶園
 日本総代理店

Mango

Coffee

Shop in New Delhi

インドの「おいしい」「安全」を
 日本へお届けしつづけ、24年。

Organic Tea

Makaibari JAPAN
 Tea Boutique & Tea Salon
HAPPY HUNTER INDIA

有限会社マカイバリジャパン (マカイバリ茶園アジア・日本総代理店)
 東京都中野区沼袋 4-38-2 Tel: 03-5942-8210 Fax: 03-5942-8211 makaibari_japan
 tea@makaibari.co.jp www.makaibari.co.jp

ISHII TRADING PRIVATE LIMITED (インド会社)
 E52 Hauz Khas Main Market, New Delhi-110016, INDIA info@ishii.co.in

india_happyhunter

元ネルー大学教授 プレム・モトワニ氏がメールマガジンにてインドからお届けする「インドの今」。ご登録は、マカイバリジャパンのホームページから。 www.makaibari.co.jp

ガネーシャ通信

日印協会からのご案内

会員限定「天竺茶話会」

講師の方を招いて、あらかじめ決めたテーマで参加者の方々と話し合うお茶会です。

インド通の方、もっともっとインドについて知りたい方、インドについて詳しくなりたい方、皆様のご参加をお待ちしております。
どうぞお気軽にご参加ください。

《テーマ》 南インドの神降ろし儀礼テイヤム～緑の大地に降臨する異形の神々～

《講師》 井生明氏（フォトグラファー、ライター、まちかど倶楽部 / マールガリ・ジャパン 代表）

《日時》 2026年7月22日（水）14:00-15:30（受付開始13時45分）

《会場》 公益財団法人日印協会 会議室
東京都千代田区麴町1-6 麴町保坂ビル 6階

《定員》 約18人※定員数になり次第、締切らせて頂きます。

《参加費》 お茶菓子とお茶代 1,000円(当日現金)

《お申し込み》 メール「partner@japan-india.com」

または、電話 TEL: 03-6272-4408

公益財団法人日印協会

住所： 〒102-0083 東京都千代田区麴町1-6 麴町保坂ビル6階

電話番号： 03-6272-4408 ファックス： 03-6272-4135

メール： partner@japan-india.com

ホームページ： <https://www.japan-india.com>

MJIA(Monthly Japan-India Association)

2026年5月号（2026年5月29日発行）

発行人：齋木 昭隆 編集人：三谷 礼子



編集後記 ～紅茶のお話⑤Kangra～

MJIA 5月号はいかがでしたか。今号では、日印協会の新会長ならびに新会長代行ご就任のご挨拶を掲載しております。会員の皆様には、6月18日（木）に開催されます『新会長・会長代行お披露目レセプション』にて改めてご挨拶の機会を持ちたいと思いますので、よろしく願います。

さて、今回の紅茶のお話は「カングラ・ティー（KANGRA TEA）」です。「カングラ」という産地名を聞いた事がありますか？紅茶を勉強している方でも滅多に聞いたことがない紅茶だと思います。私も知りませんでした。では、なぜあまり知られていないのでしょうか？

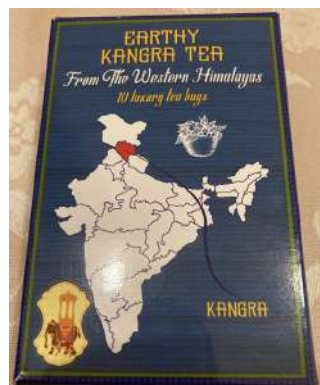
カングラは、北西インドのヒマーチャル・プラデシュ州にあります。19世紀半ばにイギリス人がお茶の栽培を始め、一大産地となっていました。

ところが、1905年に発生したカングラ地震で、茶園を経営していたイギリス人のほとんどが本国に帰国。これによりカングラのお茶の生産は大幅に減少し、同じインドのダージリンやアッサムの後塵を拝するようになりました。

また、もともとカングラのお茶のメインターゲットは、世界の紅茶市場ではなく、アフガニスタンを中心とした中央アジアの緑茶市場に向けられてきたという事情もあります。

こうした背景により、カングラのお茶の世界市場への流通は非常に限られてきました。

しかし近年では、その品質の高さが見直され、「知る人ぞ知る紅茶」として再評価が進んでいるようです。今回私がカングラ・ティーを知った理由は、インド・キャリアカフェにご登場頂いた講師から協会へお土産に頂いたからです。



標高の高い冷涼な気候の中で育まれるカングラ・ティーは、爽やかで繊細な香りを持つことで知られています。実際に淹れてみると、その味わいはダージリン・1stフラッシュによく似ており、花や青葉を思わせる軽やかな香りと、透明感のあるすっきりした飲み口が印象的でした。渋味は控えめで、口当たりも柔らかく、何杯でも飲みたくなるような上品な紅茶です。春摘みのダージリンがお好きな方には、きっと好まれる味ではないでしょうか。

インド紅茶というと、つい有名産地に目が向きがちですが、こうした地域色豊かな紅茶に出会うたび、インドの奥深さと多様性を改めて感じます。

季節の変わり目ですので、皆様どうぞご自愛ください。

(日印協会 三谷礼子)

<法人会員一覧>

2026年5月25日現在 (50音順)

複数口法人会員 29社

株式会社IHJ
株式会社エイチシーエル・ジャパン
国際縄文学協会
国際スポーツ振興協会
株式会社小松製作所
ジャパンペガサスツアー株式会社
株式会社シンリョー
スズキ株式会社
住友商事株式会社

住友電気工業株式会社
世界開発協力機構
世界芸術文化振興協会
全日本空輸株式会社
ダイキン工業株式会社
第一三共株式会社
株式会社TTJ・たちばな出版
株式会社デンソー
一般財団法人東京芸術財団
東洋アルミニウム株式会社

豊田通商株式会社
株式会社日本視聴覚社
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社菱法律・経済・政治研究所
公益財団法人フォーリン・プレスセンター
株式会社MIXI
株式会社ミスズ
三井物産株式会社
三菱商事株式会社
武蔵野メディカルシステム株式会社

法人会員 184社

株式会社IPパートナーズ
株式会社朝日新聞社
株式会社アシックス
有限責任あずさ監査法人
アセアン・ワン株式会社
アーチ株式会社
ARMS株式会社
ALSOK株式会社
A'ALDA PTE. LTD.
株式会社安藤・間
医療法人社団 育健会
いすゞ自動車株式会社
株式会社伊藤園
伊藤忠商事株式会社
株式会社インフォブリッジマーケティング&プロモーションズ
株式会社INPEX
インド日本商工会
ウェブスタッフ株式会社
弁護士法人 瓜生・糸賀法律事務所
エア・インディア リミテッド
エア・ウォーター株式会社
SBSホールディングス株式会社
株式会社エトワール海渡
NRM JAPAN 株式会社
株式会社NGC
株式会社NTTドコモ
株式会社FTO
エンビジョンエンタプライズソリューションジャパン株式会社
沖印友好協会
株式会社 オリエンタルコンサルタンツグローバル
株式会社オリエンタルランド
オーウイル株式会社
株式会社オープンハウスグループ
加賀電子株式会社
鹿島建設株式会社
カナデビア株式会社
亀田製菓株式会社
株式会社川内美登子・植物代替療法研究所
関西学院大学
キャノン株式会社
クエスト・グローバル・ジャパン株式会社
株式会社クボタ
株式会社熊谷組
蔵町工業株式会社
黒崎播磨株式会社
株式会社グローバルヒューマニー・テック
ケイエフ・トレーディング株式会社
株式会社 啓文社
株式会社 ケー・アンド・エル
鴻池運輸株式会社
株式会社交洋
株式会社講談社
公益財団法人 国際文化会館
小島国際法律事務所
ジェンバクト株式会社
酒井重工業株式会社
株式会社 サカタのタネ
公益財団法人笹川平和財団
株式会社 サンウェル
山九株式会社

サントリーホールディングス株式会社
G-8 INTERNATIONAL TRADING 株式会社
JFEスチール株式会社
JGREEN POWER PRIVATE LIMITED
株式会社時事通信社
株式会社システムコンサルタント
株式会社静岡ガス
株式会社静岡銀行
有限会社シタール
品川イーストクリニック
有限会社ジーエストラベル
株式会社商船三井
株式会社新日本科学
鈴与株式会社
住友重機械工業株式会社
住友不動産株式会社
生活協同組合コープさっぽろ
積水ハウス株式会社
株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド
セコム医療システム株式会社
ZEUS LAW
医療法人社団創生会 町田病院
双日株式会社
損害保険ジャパン株式会社
第一生命ホールディングス株式会社
大成建設株式会社
株式会社大創産業
大日本印刷株式会社
株式会社タマインベストメントエデュケーションズ
千代田化工建設株式会社
ティー・アイ・シー協同組合
株式会社ディー・エヌ・エー
TMI総合法律事務所
ティー・ディー・パワーシステムズ・リミテッド
学校法人 都築育英学園
株式会社 帝国ホテル
帝人株式会社
株式会社テクノロジーズONE
株式会社テレビ朝日
株式会社テレビ東京
TECH JAPAN 株式会社
株式会社TBSホールディングス
株式会社電通
東京海上日動火災保険株式会社
株式会社東芝
株式会社東横イン
東レ株式会社
戸田建設株式会社
飛島ホールディングス株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社トピア
内外トランスライン株式会社
鳥飼総合法律事務所
株式会社中村屋
株式会社ナベル
株式会社日新
株式会社ニトリホールディングス
株式会社ニフコ
西村あさひ法律事務所
日印ビジネス支援協会株式会社
日精工エー・エス・ビー機械株式会社
NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
税理士法人日本経営

日本信号株式会社
株式会社 日本経済新聞社
日本航空電子工業株式会社
日本航空株式会社
公益財団法人日本交通公社
一般財団法人 日本国際協力センター
日本製鉄株式会社
日本タタ・コンサルタンシー・サービス株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本電気株式会社
日本放送協会
株式会社 日本マルコ
日本郵船株式会社
日本電子株式会社
野村不動産株式会社
野村ホールディングス株式会社
ノリタケ株式会社
ハイカル ジャパン
株式会社博報堂
株式会社 阪急交通社
阪和興業株式会社
株式会社ピーアイ・ジャパン
BEYOND NEXT VENTURES株式会社
株式会社BS日本
株式会社日立製作所
BLS INTERNATIONAL SERVICES LIMITED
フィデル・テクノロジーズ株式会社
株式会社フジタ
富士フィルム株式会社
富士通株式会社
株式会社フジテレビジョン
富士電機株式会社
BAKER TILLY ASA INDIA LLP
フォースバレー・コンシェルジュ株式会社
株式会社プレジール
ポラリス・キャピタル・グループ株式会社
株式会社ボルテックス
前田建設工業株式会社
松田綜合法律事務所
丸紅株式会社
株式会社みずほ銀行
三井住友海上火災保険株式会社
株式会社三井住友銀行
三菱重工業株式会社
株式会社三菱UFJ銀行
株式会社ミツバ
民間外交推進協会 (FEC)
株式会社メタルワン
一般社団法人MEDICAL EXCELLENCE JAPAN
森・濱田松本法律事務所
株式会社ヤクルト本社
株式会社安井建築設計事務所
ヤマハ発動機株式会社
ヤマヤエレクトロニクス株式会社
郵船ロジスティクスグローバルマネジメント株式会社
ユーピーエルジャパン合同会社
豫洲短板産業株式会社
読売新聞東京本社
株式会社ライズ・ジャパン
YKK株式会社
医療法人社団和風会

JAPAN AIRLINES



新しい翼で、世界の空へ。

JAL 羽田-デリー線、成田-ベンガルール線
好評運航中!



おかげさまでJALグループは、8年連続で
世界最高ランクの5-STAR AIRLINE*に認定されました。
*2025年SKYTRAX社認定



明日の空へ、日本の翼